

児童生徒の変化・サインへの気づきと的確なアセスメント

■ 児童生徒の変化やサインに気づく方法

- 児童生徒の変化やサインに気づくためには、児童生徒と触れ合う機会を意図的に多くするとともに、各教科担任・部活動顧問（中・高等学校）、養護教諭等から担任に、児童生徒の情報がすぐに入るような情報連携ネットワークを確立する必要がある。

◆ 児童生徒の変化やサインに気づく方法の一つとして、いじめ防止の観点から実施している**悩みごと調査などのアンケート**を実施し、児童生徒の人間関係や個々の問題の把握に努めている。実施回数は、学期1回、年5回、毎月など、様々であるが、大切なことは、児童生徒が正直に事実を記入するよう、意識付け等を工夫することである。

◆ 学級集団を客観的にとらえ、そこから児童生徒一人一人の理解と対応方法など、今後の学級経営に役立てるために、Q-U^{*}等を活用している学校もある。

※注 「よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート」という標準化された心理検査。学級満足度尺度と学校生活意欲尺度の二つから構成されている。

■ 個別指導記録等の作成と的確なアセスメント

- 不登校対策において、学校の組織としての**的確なアセスメント**（児童生徒の状況や必要としている援助などを適切に見極めたり、判断したり、見立てたりすること）を実施することが重要である。そのためには、児童生徒に関わる情報を可能な限り正確に集約すること、**個別指導記録**等を作成し、経過を追って集積すること、個別指導記録等を活用して校内の共通理解を図り、指導体制を確立していくことなどが望まれる。

◆ **個別支援シート【巻末：参考資料① vol. 4】**

比較的簡易に作成し、視覚的にとらえることができるため、援助の視点が明確になるとともに、組織的に対応することができるなどの利点がある。

◆ **不登校児童生徒支援計画書【巻末：参考資料② vol. 4】**

指導・援助の経過が共有できるものが必要であるため、作成する。不登校の段階を初期・中期・後期・再登校期の4段階に分け、本人の状況、援助策・分担・期間、今後の援助方針等を記入し活用することができる。

◆ **カレンダー形式の指導支援計画【巻末：参考資料③ vol. 4】**

多忙な中での情報の累積と共有化を図るために、短時間に必要最小限の情報を時系列に記入するもので、関係教職員が気軽に目を通すことができる。

◆ **個別対応一覧表【巻末：参考資料④】**

「今実践していること」、「これからできること」を学級・学年・全体の3項目に分けてまとめたもので、簡単に作成することができ、見やすいなどの利点がある。

■ 個別指導記録等の作成・活用のポイント

- 個別指導記録等の作成及び活用のポイントには、次の点があげられる。

- ① 「何のために作成するのか」（作成のねらい）を明確にする。
- ② いつ、どのような働きかけをしたかなど、時系列に客観的な事実を記述する。
- ③ 保護者と共通する問題意識の下で連携して援助できるようにするため、家庭での様子などを保護者に確認して作成する。
- ④ 必要に応じて、SC、SSW等の専門的な判断も指導に生かせるよう配慮する。
- ⑤ 記録は月毎に管理職に提出したり、生徒指導委員会等での情報共有や対応策の検討に活用したりするなどして、援助方法の見直し・改善を図る。
- ⑥ 家庭や関係機関等との連携を図る際にも、積極的に活用する。
- ⑦ 個人情報保護には十分配慮し、情報管理を徹底する。